



に減少に転じ、2008年度に至っては30%の大台を割り込む状況となっている。一方で、異物混入苦情の減少に反比例するように伸張を続けているのは異味・異臭苦情である。年々1～2ポイント程度の増加を続けている。この間、2008年6月のカップ型即席めんへの防虫剤(パラジクロロベンゼン)の移り香に端を発した回収事故や、同年8月の事故米の不正流通を機に大発生した米の異味・異臭苦情などが大きく報道され消費者の関心を集めたことは記憶に新しい。それまでも、カップめんの容器に使用されているポリスチレンなどの物質がにおい成分を通気してしまう事実は広く知られていたが、そのことが直接消費者の苦情の原因になることはなかった。この時期、特にこうしたことが問題となった要因としては次のようなことが考えられる。

- ① 2008年1月に発生した天洋食品の冷凍ギョーザ事件以降、消費者の化学薬品や有機溶媒に関するにおい、香りに対する感性が急速に増幅されたこと。
- ② 全国で発生した異常気象や大型地震、さらには新型インフルエンザの対応策として食料品の備蓄が全国規模で喧伝されたこと。通常範囲内であれば食品庫に収納可能な食料品が、一般的には使用されないような置き場や押入れなど(衣類や寝具、洗剤等の近辺)に収納される事例が増えたこと。

2. 異味・異臭苦情の実態と特徴

2.1 苦情表現の個人差が大きい

表－1に2008年度に受け付けた異味・異臭苦情のうち、特に件数の多かった商品の苦情表現を示す。この

表－1 2008年度異味・異臭多発事例の苦情表現

	ツナ缶(オイル漬け)	液体つゆ	調味タコ	冷凍魚介類	農産乾物	レモン果汁	うなぎ	カキ加工品
異臭・変なにおい・変な味	11	8	5	14	10	4	5	
臭い	6							29
ガソリン臭・油臭	11	2	6		4			2
鉄臭・缶臭	8							
生臭い・魚臭	24		1	2			1	16
腐敗臭	1		2					14
消毒臭・カルキ臭・クレゾール臭・塩素臭		31	3	11			4	4
薬品臭		38	8	13	1	18	17	9
アルコール臭・酒のにおい		2		1			1	
プラスチック臭		3		3				
すっぱい・酸味		9			2		4	2
ヨウ素臭		1						
洗剤臭			1		1	1		
泥臭い				1			23	7
焦げ臭・苦い				1	3		6	5
油の焼けたにおい					1			
化粧品のにおい					1			
カビ臭						25	25	
農薬臭・農薬っぽいにおい						1	3	
獣臭							1	
磯臭い・海臭い							2	3
刺激臭								2